今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○4日15日～

先週の米国の消費者物価指数が予想よりも強かったことで、ドル高が進みました。
152円を超えて、153円台までドル／円は上昇しました。1990年6月以来の円安水準です。
テクニカル的には150円を明確に超えてくると長期的に160円を目指す動きが出やすくなります。
2011年のドル／円が75円台だった時から見ると円の価値はドルに対して半分以下になってしまったということです。
この円安の影響で金（ゴールド）などもドル建てで見るよりも大きく上がっています。
日本は海外に比べてインフレが進んでいないと言われていますが外貨も資源もこの調子で上がっていくとインフレがさらに進む可能性があります。
バブル崩壊後は金や資源などが上がる局面はいつも円高でした。
このため円が強くなることで、資源価格の高騰などを抑えてくれる効果があったのですが、今回は円も弱くなっているので、海外からの輸入品はすごい勢いで上がっていくことになります。
今週は日本で全国消費者物価指数が発表されます。
日銀がどのような形で追加利上げを考えているのか、介入はあるのかなど日本の動きも目が離せません。
そして、米国や欧州、それ以外の先進国の利下げに関しては開始時期がどんどん後ろにずれていっています。米国の利下げも年に3回の予想が2回、1回と減ってきています。
このままインフレ再燃懸念がおさまらなければ年内の利下げはなくなるかもしれません。
そして、ここにきて中東情勢がまた悪化してきました。
イスラエルとイランの間の緊張が高まり、先週末も米国株などがリスク回避から下落して終わっています。
NYダウは4月初めの高値からずっと下げており、この流れが加速すると大きな調整が起こる可能性があります。
年初からリスクオン的な動きが株やその他の市場でも見られた分、調整入りとなれば来月にかけて大きく下がる動きも警戒しないといけません。
株価は下落しても原油価格は中東情勢の悪化から上昇、金価格も中国やインドなどの中央銀行の買いから上昇していくシナリオも考えられるため過去の値動きとかなり違ってきていることも考えながらマーケットを見ていく必要があります。
為替相場は多少の円高局面はあったとしてもファンダメンタル的な理由から円安トレンドは続いていく可能性があります。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

Copyright© （有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved

今週の相場はどうなる？

＜ドル／円＞

先週のドル／円は153円台まで上昇しました。
153．4円を超えると155円あたりまで上昇する可能性がありますが155円あたりでは介入警戒感が高まるため高値追いは危険です。
引き続き、下がってきたところを狙って買っていく押し目買い戦略を考えたいです。
下値は長いこと抵抗線となっていた152円あたりでは下げ止まりやすいため152円、151円台まで下がることがあれば買いを検討したいです。
150円台を維持している間は強い動きが続きそうです。

＜気になるクロス円＞

クロス円は先週末下がっているペアが多く、週初めも下がる動きが続くかどうか見極めが重要になります。
株価が大きく下げ始めるとクロス円はリスク回避的な動きで下げやすくなるため米国株や日本株などの動きも見ておきたいです。
週足のトレンドが上昇している間は、下げ止まりを待って買う戦略がよさそうです。

＊クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

＜今週のファンダメンタル？＞

日本では 2月機械受注、3月貿易統計、3月全国消費者物価指数などがあります。
米国では4月ニューヨーク連銀製造業景気指数、3月小売売上高、4月NAHB住宅市場指数、3月住宅着工件数、3月鉱工業生産、米地区連銀経済報告（ベージュブック）、2月対米証券投資、4月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、前週分新規失業保険申請件数、3月景気先行指標総合指数、3月中古住宅販売件数などが発表されます。
欧州ではユーロ圏とドイツで4月ZEW景況感調査、ユーロ圏で2月鉱工業生産、3月消費者物価指数などがあります。
ほかには、中国で1－3月期GDP、カナダと英国で消費者物価指数の発表などがあります。

Copyright© （有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved